

令和7年度 東京都立立川高等学校 全日制課程 学校経営計画

東京都立立川高等学校長
鈴木 宏 治

私は着任以来、本校が目指す教育の方向性として、①学習指導・進学指導の充実、②探究活動の充実、③自主自律の尊重の三つを掲げてきた。現在、これらはそのまま本校の大きな魅力となっており、この方針の下、普通科・創造理数科のそれぞれの特色を生かしながら、学校改革・学校運営に取り組み、上記の①②③の更なる充実を図ることが、今年度の学校経営計画の柱である。

今年度も、学校経営の更なる改善と目標達成に向けた取組を進め、昨年度の学校経営で残された課題を着実に克服し、都民の期待と信頼に応える学校作りを推進していく。

1 目指す学校

◆スクールミッション

主体的かつ創造的な学習への意欲を高め、論理的思考力・健全な批判力を養い、世界に発信できるリーダーとしての素養を獲得させます。物事を広い視野で多角的に捉え、全体最適化に向けて行動できる生徒、文理にこだわらない幅広い素養と情報活用能力等を高いレベルで活かし、新しいイノベーションを生み出す人材を育成します。

◆スクールポリシー

(1) グラデュエーション・ポリシー

【普通科・創造理数科】

- 新たな時代を切り拓き、国際社会でたくましく活躍する人材としての素養をもつ
- 高い志を抱き、その目標を実現できる知・徳・体のバランスと真の学力をもつ
- 自律的な行動ができ、人と関わる力や豊かな心と高い倫理観をもつ

【創造理数科】

- 理数系分野の素養を深め、物事の本質を見極めようとする姿勢をもつ
- 将来にわたって研究する科学的な人材としての基本的な資質と能力をもつ

(2) カリキュラム・ポリシー

- 1 学習習慣の確立と自学自習の態度の育成を目指す学習指導
- 2 高い目標を掲げ、進路実現を図る進路指導
- 3 自主自律の精神を涵養する生徒指導
- 4 国際社会で活躍する科学技術人材を育成する探究活動指導

(3) アドミッション・ポリシー

- 1 学業成績が極めて良好で、本校の【普通科】または【創造理数科】の教育課程を理解し、入学後も意欲的に学習に取り組むことができる生徒
 - 2 難関国公立大学進学への意欲など将来の進路実現に向けて、高い志を掲げ、継続して努力することができる生徒
 - 3 自らの行動に自覚と責任をもち、中学校において、学習と特別活動などを両立させてきた実績がある生徒
 - 4 【普通科】探究的な姿勢をもち、自ら課題を見付け、その解決策を見出すような取り組みができ、何にでも興味をもち、自分のこととして物事を捉えることができる生徒
- 【創造理数科】科学分野に高い興味関心をもち、研究活動などの創造的な活動に意欲があり、外部の研究発表会などに積極的に参加することができる生徒

【教育目標】

- 主体的かつ創造的な学習への意欲を高め、基礎学力の充実と論理的思考力・健全な批判力を養い、世界に向けて発信することのできるリーダーとしての素養の獲得
- 物事を広い視野で多角的に捉え、内在する課題を見出し、全体最適化のための道筋を導き出し、その実現に向けて行動できる学力の習得
- 文理にこだわらない幅広い素養と情報活用能力等を高いレベルで併せ持ち、それらを活かして新しいイノベーションを生み出すことのできる人材の育成

【目指す学校像】

- Challenge(挑戦する心)・Collaboration(協働する姿勢)・Concentration(集中力)・Creativity(創造性)・Confidence(自信)・Critical thinking(批判的思考力)・Citizenship(市民としての義務を果たす力)という「7つの力」を育む学校
- 将来にわたって探究する姿勢をもち、高い志を目指し続けるようなリーダーシップを育む学校
- 生徒、保護者、同窓生、地域関係者及び教職員が愛し、誇れる学校

2 中期的目標とその達成に向けた方策

(1) 学習指導

① 進学指導重点校として、安定した高い進学実績を達成する。

《方策》 自校作成問題・推薦入試問題の質の向上、難関国公立大学等の入試問題研究、難関大に対応した教科指導力の向上、問いを中心とした思考力・判断力・表現力を育む探究的な授業実践、国公立二次及び難関私大入試に対応できる読解力・記述力の育成

② スーパーサイエンスハイスクール(Ⅱ期目)の活動を充実させ、探究能力と国際性の育成を図る。

《方策》 自作の CAN-DO リストの活用による課題研究の質の向上、大学や研究機関等との連携の強化、フィールドワーク・体験実習・講演会等のSSH企画の充実、研究発表の機会創出、科学オリンピック等への参加奨励、SSH海外研修(アメリカ)・海外学校間交流(タイ)・SSコミュニケーション英語の充実

③ 創造理数科の特色ある教育実践により、将来の科学技術系人材の基礎を育む。

《方策》 理数系科目の授業充実、質の高い課題研究の実施、独自英語プログラムの実施、多彩な企画の実施

④ ICT機器・個人端末を活用し、個別最適化された学び・協働的な学びを実現する。

《方策》 ICT 機器・個人端末活用を促す教員研修、個別最適化された学びによる学習効果の向上、授業実践の充実 ICT を活用した授業の相互参観、ICT 支援員の効果的な活用

(2) 生活指導

① 基本的生活習慣を確立する。

《方策》 クラス・学年・全校集会等での効果的な指導の実践、個別指導の徹底、時間管理の指導、SNSルール厳守の徹底

② ダイバーシティ意識を醸成し、合理的な配慮に基づく教育活動を実現する。

《方策》 特別支援教育の理解、多様性を認める教育の推進、いじめ防止対策、カウンセリング機能の強化、教員研修の推進

③ 感染症対策を徹底し、感染しない・させない意識と行動を身に付けた生徒を育成する。

《方策》 毎日の健康チェック・日常的な感染予防の徹底、状況に応じた注意喚起の実施

(3) 進路指導

① 第一志望を諦めさせない進路指導を行う。

《方策》 学年・進路部・教科間の連携強化、面談(二者・三者)の充実、進路講演会・社会人講話のキ

キャリア教育の充実、大学受験情報の迅速かつ確実な提供、個人の3年間の成績データに基づくケース会議・指導・激励、

② 進学指導重点校としての目標を安定的に達成する。

《方策》高い進路目標の設定、高い志をもつ生徒集団の構築、自習室等の学習環境の整備、総合型選抜入試への対応、模試結果の確実なフィードバックと指導への反映、大学入学共通テストのフル型受験の奨励

(4) 特別活動

① 特別活動の一層の充実を図り、学校生活全体を通じて、自主自律的な行動のできる生徒を育成する。

《方策》生徒が主体となる部活動・委員会活動・学校行事の推進、教員による適切なサポート体制の構築

(5) 広報・募集対策

① 本校の魅力を様々な方法で発信し、入学希望者数の安定化と拡大を図る。

《方策》学校ホームページ随時及び計画的更新、ホームページレイアウトの一層の工夫、塾対象説明会・学校説明会での実施回数増、PR力強化、学校見学者に対する受入態勢の整備、学校見学日数の増加（授業公開、課題研究発表会、学校行事）を目指す工夫

(6) 学校運営・組織体制

① 企画調整会議、職員会議、各種会議（学年会、分掌会、教科会等）、委員会の役割を明確化して計画的・効率的に運営し、決定事項を確実に学校経営に反映させる。

《方策》校内サーバーを用いた情報共有、確実な業務引継ぎ、経営企画室の経営参画

② 教育目標を達成するための教育環境を整備する。

《方策》改築工事の計画的な実行、校内美化の推進、計画的な予算執行、同窓会・保護者との連携強化、既存設備の点検と安全管理

③ 教職員のライフ・ワーク・バランスの安定化を経営計画に位置付け、心身の健康を維持する。

《方策》ライフ・ワーク・バランスの推進を経営計画に位置付け、心身の健康を維持する。管理職による勤務時間管理及び相談、専門家による相談体制の充実

3 今年度の取組目標とその達成に向けた方策

(1) 学習指導

- ① 難関国公立大学入試を見据えた到達目標設定及び達成のための指導計画を作成し確実に実行する。
- ② 問いを中心とした思考力・判断力・表現力を育む探究的な授業を各教科において実践する。
- ③ 学期ごとに適切な観点別評価を行い、学習指導に反映させる。
- ④ 生徒全員が質の高い課題研究に取り組めるよう、SSH教員研修を充実させる。
- ⑤ 英語力向上とグローバル意識の醸成に取り組み、国際性の育成を図る。
- ⑥ 読書活動を充実させ、本を読む習慣づけを行う。
- ⑦ ICT機器及び一人一台端末の活用に努め、個別最適化した学び、協働的な学びを推進する。
- ⑧ 生徒による授業評価アンケート結果を把握し、教科指導に反映させる。

(2) 生活指導

- ① 基本的生活習慣を身に付けさせ、ルールやマナー（特にSNS関係）を守る姿勢を養う。
- ② 折に触れ「ダイバーシティ」、「多様性の尊重」の考え方を身に付けさせるような指導を行う。
- ③ いじめ・体罰を許さないという認識を全ての教職員・生徒で共有し、安全・安心な学校を実現する。
- ④ 生徒の様子や変化に敏感に対応し、家庭やSCとの連携を密に取ることで自虐・自殺防止に努める。

(3) 進路指導

- ① 適切かつ最新の大学入試情報を適切な時期に提供する。
- ② 進路検討会において生徒の学習状況及び進路希望の共有を図り、その後の学習指導に活かす。

- ③ 学習時間調査・進路希望調査結果を効果的にフィードバックし、学習改善と高い目標設定に繋げる。
- ④ 入学時から難関国公立大学現役合格を目標とさせ、共通テストのフル型受験につながるよう、全ての教科・科目を広く深く学習する意識と学習習慣をもたせる。
- ⑤ 卒業生等による進路講演会や進路ノートの内容を充実させ、進学意欲向上と学習法の改善に活かす。

(4) 特別活動

- ① 生徒が主体となる特別活動を推進し、自主自律的に取り組む姿勢を養う。
- ② 学習の上に成り立つ特別活動という意識を醸成させるため、「集中」と「切り替え」の徹底を図る。
- ③ 伝統ある学校行事「臨海教室」を安全に配慮して実施し、挑戦・感謝・助け合いの心を育成する。
- ④ ボランティア精神を育み、地域との交流に積極的に取り組む。
- ⑤ 「TOKYOACTIVE PLAN for students」を踏まえ、体力向上に取り組む。

(5) 広報・募集対策

- ① 学校ホームページを充実させ、魅力ある教育実践を広く都民に発信する。
- ② 学校説明会・見学会等の校内説明会、体育祭・文化祭等の公開行事での広報活動、外部会場での入試相談会等の充実を図り、入試倍率を維持・向上させる。

(6) 学校運営・組織体制

- ① 全教職員が学校経営計画を踏まえ、経営目標達成に向けて業務に取り組む。
- ② 定時制教職員・経営企画室職員と協力して校内運営及び生徒指導に当たる。
- ③ 経営企画室からの企画提案を推進し、学校運営に反映させる。
- ④ 校内美化に努めるとともに掲示物等を工夫し、清潔な校内環境と明るい雰囲気づくりに努める。
- ⑤ ライフ・ワーク・バランスを意識し、残業時間の削減に取り組む等、働き方改革を推進する。
- ⑥ P T A・同窓会（紫芳会）と連携し、教育効果を高める活動を推進する。

【重点目標・数値目標】 ()内は過去5年間の推移

(1) 学習・学校生活に関すること

- 1週間の自主学習時間 1年生:18時間以上 2年生:24時間以上
1年生 (R2:16時間27分、R3:14時間42分、R4:14時間00分、R5:10時間11分、R6:12時間12分)
2年生 (R2:17時間36分、R3:14時間36分、R4:14時間36分、R5:10時間42分、R6:11時間20分)
- 学校評価アンケートで「入学して良かった」と回答する生徒の割合 90%以上
(R2:90.2、 R3:93.5、 R4:89.9、 R5:92.8、 R6:95.0)

(2) 進路指導に関すること

- 大学入学共通テスト受験者のうちフル型受験者数 240名以上
(R2:231、 R3:244、 R4:244、 R5:231、 R6:228)
- 国公立大学現役合格者数 140名以上
(R2:122、 R3:138、 R4:135、 R5:132、 R6:135)
- 難関国公立(東大・京大・一橋大・科学大・北大・東北大・名大・阪大・九大・医)現役合格者数 40名以上
(R2:23、 R3:33、 R4:40、 R5:31、 R6:37)
- 国公立大学 学校推薦型・総合型選抜 現役合格者数15名以上(指定校推薦を除く)
(R2:14、 R3:9、 R4:12、 R5:6、 R6:11)

(3) 入学者選抜に関すること

- 【普通科】入学者選抜の最終応募倍率 推薦:(普) 3.20倍、学力:(普) 2.00倍
推薦 (R2:3.98 R3:3.33 R4:3.50 R5:2.95 R6:3.43)
学力 (R2:1.63 R3:1.95 R4:1.96 R5:1.86 R6:2.22)

※R3以降の普通科学力の倍率＝(普通科専願者数＋普通科・理数科併願者数)／普通科募集人員数

○【創造理数科】入学者選抜の最終応募倍率 推薦:(理)1.50 学力:(理)4.00倍

推薦(R3:理 2.00 R4:理 1.50 R5:理 1.13 R6:理 1.13)

学力(R3:理 3.70 R4:理 3.66 R5:理 2.71 R6:理 4.51)

※理数科学力の倍率=(理数科専願者数+普通科・理数科併願者数)÷理数科募集人員数

【重点目標達成のための具体的方策】

(1) 学習指導 :質の高い授業実践と自学自習の態度の育成

- ア 年間を通して旧帝大レベルの大学入試問題研究に取り組み、授業・講習に活かす。
- イ 国公立二次等の記述対策のため、適切な問いがあり思考・判断・表現力が鍛えられる授業を行う。
- ウ 学習意欲向上と科学的思考力の育成を図るため、SSHの取組(課題研究、国際性の育成、本物体験、教科教育)を全教職員で進める。
- エ 全教員が、(他教科を含む)年間3回以上の相互授業参観を行い、授業改善に取り組む。
- オ 英検受験を推奨し、CEFR(B2)英検準一級以上の生徒の割合25%以上を達成する。

(2) 生活指導 :自主自律の精神・多様性を認める意識・態度を涵養する生徒指導

- ア 多様性を認め、相手の立場に立った言動のできる生徒を育成し、いじめ0を達成する。
- イ 生徒の自主性を重んじ、支える立場での生徒指導を徹底する。
- ウ 遅刻防止、挨拶の徹底など、基本的生活習慣の確立に向けた指導を全員で行う。
- エ 通級指導、メンタルケア等の配慮が必要な生徒に関する情報を共有し、適切な指導体制を構築する。

(3) 進路指導 :高い目標を目指す集団作り

- ア 進路指導計画に基づき、個人面談又は三者面談を年間3回以上(うち1回は希望する保護者との三者面談)実施する。
- イ 自習室の活用日数を増やし、一日あたりの平均使用人数を現状の1.2倍に増加させる。
- ウ 1年生は週18時間以上、2年生は週24時間以上、授業外での自主学習時間を確保するよう学習時間調査等を活用して指導する。

(4) 特別活動 :学習の上に成り立つ部活動・学校行事等の実践

- ア 部活動顧問・指導員及び行事担当教員は今年度の活動目標を定め、目標達成に向けて取り組む。
- イ 学習の上に成り立つ部活動・学校行事であることを理解させ、集中と切り替えを意識させて、学習・部活動・学校行事等の両立を図る指導を徹底する。

(5) 広報・募集対策 :効果的な広報活動の展開

- ア 広報活動に全教職員が関わり、応募倍率の向上に努める。
- イ 学校ホームページへの記事掲載の内容と時期を計画し、更新回数180回以上を達成する。
- ウ 学校説明会等では校内美化を強化し、生徒会や部活動生徒を活用する。
- エ 創造理数科のPRを強化する。

(6) 学校運営・組織体制 :教職員一丸となった組織的・計画的な学校運営

- ア スクールカウンセラー2名体制を効果的に活用し、担任と協力して生徒のケアに努める。
- イ PTA・同窓会(紫芳会)との連携を強め、生徒へのサポート体制を確実に維持する。
- ウ 保有個人情報の取扱い・入学者選抜業務については、細心の注意を払い、事故ゼロとする。
- エ 教職員の働き方改革、well-beingを強く意識させ、残業時間の減少を図る。